

きずな

2016年 7月14日

NO1079

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (Tel. 62-6200)

7月10日投・開票の参議院議員選挙で日本共産党は比例で5議席、選挙区で1議席を確保し、改選3議席を倍化する躍進をしました。非改選8議席を合わせると14議席になります。この議席をもとに国会内外で公約実現のため奮闘してくれるものと期待しています。

今号は、「しんぶん赤旗」から参議院議員選挙関連の記事を抜粋しお知らせいたします。

参院選開票結果

市民と野党 共同の力発揮した

参院選が投開票され、日本共産党は比例代表で601万票余を得て5議席を獲得、選挙区でも東京選挙区で当選するなど各地で得票を伸ばしました。日本共産党、民進党など野党4党が協力した全国32の1人区でも、11選挙区で野党統一候補が勝利しました。ご支援いただいた方、猛暑や豪雨のなかでも奮闘された方々に、心からお礼申し上げます。安倍晋三政権による経済と暮らしの破壊や改憲策動がいよいよ重大化します。安倍政権の暴走政治にストップをかけるため、国民・市民とさらに力を合わせ立ち向かう決意です。

政治を変えての願い受け

日本共産党が今回の参院選の比例代表で獲得した得票と議席は、目標とした850万票、9議席には及ばなかったものの、躍進した前回3年前の比例代表よりも得票を増やし、歴史的にも過去2番目の得票数となりました。戦争法の強行や「アベノミクス」による暮らしと経済の破壊など、国民の間で積もりに積もった安倍政権への怒りとともに、日本共産党に対して寄せられた、今の政治を変えるために頑張つてほしいという期待に身の引き締まる思いです。

選挙区でも東京選挙区で3年前に続き、31歳の青年弁護士が実現できたことは大きな喜びです。野党統一候補を擁立した1人区以外の複数区でも、日本共産党の候補者は神奈川で接戦、埼玉、千葉などで大きく得票を伸ばしました。比例と選挙区合わせた6議席は改選議席の2倍です。非改選と合わせ14人に前進した参院議員団は、21人の衆院議員団とともに公約実現へさらに奮闘できます。

今回の参院選で特筆される、32の1人区全てでの野党統一候補の擁立では、3分の1を超える11選挙区で勝利できました。このことは大きな成果です。戦争法に反対した青年や女性、学者など市民の共同に後押しされて、野党と市民が力を合わせてたたかいた初めての国政選挙です。戦争法廃止・立憲主義回復の大義のもとに結集した市民と野党の共闘は、その力によってこそ「政治は変えられる」との有権者の期待を広げ、力強く実証したのです。野党共闘のいっそうの発展が求められます。

無党派層の6割が野党統一候補に投票したとのマスメディアの出口調査の結果（「朝日」11日付）もあります。全体として自民党は議席を前回比10議席も減らすなかで、福島では現職の法務大臣が、沖縄では沖縄北方担当大臣が落選しました。これらの選挙区での野党候補の勝利は、東京電力福島原発事故に反省なく原発再稼働を推進する政治や、「辺野古が唯一」と県民に米軍新基地建設を押し付ける強権的な暴走への住民の怒りの表明であることは明らかです。

平和と暮らしを守るため

選挙中、安倍首相の自民・公明の与党とその補完勢力は、「野合」などという低劣で異常な野党共闘攻撃を繰り返してきました。第一歩とはいえ、各地で野党候補が勝利したのはそうした攻撃が国民には通用しないことを証明しています。

選挙の結果、自公とおおさか維新などを合わせれば参院でも3分の2を超えたとされますが、選挙中、改憲について語らなかつた安倍首相に国民は改憲発議など「白紙委任」していません。安倍政権の暴走を許さず、新しい政治の実現へ力を合わせていきましよう。

この「きずな」は森本ふみお議員のブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見るすることができます

読者ニュース「きずな」に対するご意見や情報をしんぶん赤旗の配達・集金者にどしどしお寄せください。

共産、改選倍増6議席 比例601万票 野党統一 当選11氏に

野党と市民が共闘し、安倍・自公政権と対決する歴史的な選挙戦となった10日投票の第24回参議院選挙は、11日午前までに議席・得票が確定しました。日本共産党は改選3議席を倍増させ6議席を獲得し、非改選とあわせて14議席となりました。

比例代表選挙で日本共産党は601万票（得票率10・7%）を獲得し、市田忠義、田村智子両副委員長、大門実紀史（約819万5000票）に次ぐ党史上2番目となりました。

全国32の1人区では、日本共産党など4野党が擁立した野党統一候補が11の選挙区で、自民党との接戦を制しました。非自民候補が2勝にとどまった前回13年（1人区131）を大きく上回りました。

唯一、日本共産党公認の野党統一候補となった香川の田辺健一氏は、10万4239票（得票率26・1%）を獲得し、前回13年の3万4602票（同8・3%）から約7万票増（同17・8ポイント増）と大きく前進しました。

日本共産党は、改選数2以上の複数区のうち東京選挙区（改選数6）で、山添拓氏（新）が初当選し、前回13年に続いて議席を獲得。また、当選には及ばなかったものの、得票数で見ると、埼玉選挙区は前回比で約13万票増、千葉では同約12万票増と大幅に増やすなど、大善戦しました。前回議席を得た大阪、京都では、ほぼ前回並みの得票となりました。

自民党は、追加公認を含めて、単独過半数57に届かなかったものの、自民、公明両党で70議席を得て、非改選とあわせて過半数を上回る146議席となりました。その結果、おおさか維新の会なども含めた改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2を占めました。一方、福島、沖繩では現職2閣僚が落選し、沖繩では衆院小選挙区、参院選挙区のすべてで自民党は議席を失いました。

政治考 野党共闘 政権打倒へ 可能性示す

32の参院1人区でたたかわれた歴史的な市民と野党の初の共闘選挙。勝利した可能性を示したのか。安倍政治への批判の受け皿となった野党共闘は、どのような

「共闘が勝因」

民進党の岡田克也代表の地元・三重選挙区で激戦を制した芝博一氏。開票から一夜明けた11日、民放テレビで激戦を振り返るなか、事務所で選挙結果を伝える「しんぶん赤旗」を広げる場面が映し出されました。「（自分の記事が）載ったとやる」「史上初だ」と記事が指さしました。共闘が新しい政党間の信頼関係をつくり出していることを示す1シーンです。

自民党は岡田代表の地元でのたたかいは「天王山」などと位置づけ、安倍晋三首相はじめ政権・与党幹部を連続投入して、激しい押し上げをはかりました。伊勢新聞は「市民団体を介した野党候補の一本化」「共産との共闘が勝因」と強調しました（11日12日付）。

安倍首相が3度も選挙区入りするなどして、激烈な競り合いとなった野党選挙区。信濃毎日11日付は「改憲阻止」野党共闘結実」との見出しを掲げ、野党統一候補の杉尾秀哉氏が「県内77市町村の76・6%に当たる59市町村で野党統一候補の衆院小選挙区別得票でも杉尾氏は全て最多」と指摘しました。県内の15区での全ての衆院小選挙区で、野党統一候補の得票が自公連合を上回った。この指摘です。市民と野党の結束で「政治を変える」可能性が現実的に開かれる可能性を示しました。

与党揺るがず

野党共闘の「威力」は与党を震撼（しんかん）させています。開票を受け、ある与党幹部は「（1人区で）数議席は取ると思っていたが、まさか11も負ける」とは思っていなかった」と語りました。福島選挙区で落選した岩城光英法相は12日、敗因を分析し、「安倍政権を打倒する意味での野党共闘は、それなりの成果をあげると思う」と述べました。

他方、激戦の末、当選した民進党議員の一人は「1人区での勝利は、共産党の英断と奮闘のおかげだ。本当に感謝している」と語ります。

東北6県では5県で野党統一候補が勝利。東北6県のブロック紙・河北新報11日付は「東北 与党惨敗1議席 野党共闘、5県で奏功」の大見出しを掲げ、「野党共闘 無党派に浸透 東北6選挙区 5割占める」としました。

震災復興の遅れ、農漁業を破壊する環太平洋連携協定（TPP）、アベノミクス「成果」がまったたく届かない。「河北」12日付は、「政治の光が陰り、ミクス」人々の暮らした。野党共闘が花開く土壌は東北地方に広がっていた」と書いています。